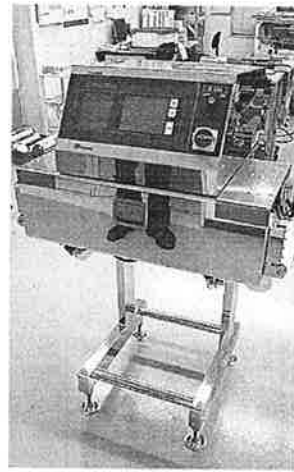


我らの一押し

システムスクエア

システムスクエア(新潟県長岡市、山田清貴社長)は、食品用のX線異物検査機が2008年4月から販売しているX線異物検査機の小型機種種の販売が順調だ。X線異物検査機は金属検出機に次ぐ自社開発製品で、日本産業デザイン振興会主催の2010年度グッドデザイン賞の中小企業庁長官賞を受賞した。2010年3月期の販売台数は約100台。11年3月期には10%程度増える見込みだ。グッドデザインを受賞したシステムスクエアは、たSX2040Wシリーズは食品用のX線異物検査機。小型で価格も280万円(税別)に抑えた。使い勝手のよい「無駄のないシンプル形状」のデザインが評価されたとみる。受賞は挑戦から3年目でつかんだ。この間、ユーザーの声を傾けながら受賞に向けてノウハウを蓄積した。「開発するの大変だが、安定的に売ることの方が難しい」と山田社長。受賞への取り組みは、売するための

食品向けX線異物検査機



グッドデザイン賞の中小企業庁長官賞を受賞したX線異物検査機

小型化・使い勝手追求

仕掛けづくりの一環でも受賞を目標に据えることとで全社員のモチベーションも上がり、商品開発にも反映される。市場や顧客からは賞を取れる力があると認識される。第三者のお墨付きを得ることで「会社への信頼も高まりブランド力の向上につながっていく」と山田社長は語る。SX2040Wシリーズは設置スペースが体積比で従来のほぼ半分になるデザインを追求した。消費電力は約2分の1に抑えた。消耗品のX線発生装置の寿命をほぼ2倍に延ばしたこともあり、導入後の維持管理コストが従来より6割くらい減るといえる。12月にはSX2040Wシリーズの上位機種としてSX2044Aの販売を始める予定。通常の異物検査と同時に、かみ込みの検査ができるのが特徴だ。レトルト品などでシールしてあるところに商品の中身がかみ込むと不良品になる。空気が入りたり菌が入ったりするため、中身が劣化する一因にもなる。従来のように、異物検査機として異物を見つけて能力を高めることが求められていた。業務提携する代理店も増え、海外売上比率が2割程度になってきた。「日本のイメージがいい」(斉藤係長)アジア圏を中心に、今後、海外は伸びていくとみている。

▽発売 2008年4月
▽年間販売実績 11 X線異物検査機 全体で約100台 (2010年3月期)
▽問い合わせ 営業部 (☎) 02558-47-1377

新潟

新潟 0255-2221-7547
長岡 02558-1371-10000

